



## 8日(月)、夕方、南西の空で、月と金星並んで輝く

8日(月)、空が暗くなり始める18時ころ、南西の低い空に三日月が輝いています。そして、この三日月のすぐ右に輝くのが、金星です。大変明るい金星と、三日月が並んだ姿は、大変美しいものです。天気にも恵まれれば、ぜひご覧ください。なお、夕焼けが明るい17時30分ころから楽しめるでしょう。

ところで、月と金星の最接近は、昼間の14時ころです。このころは、月が金星を隠す、金星食が起こります。この時は、月の後ろ側に金星が位置し、金星が見えなくなります。金星は明るいので、双眼鏡があれば楽しむことができますが、太陽が近くにあるので、十分注意しないとイケません。ということで、一般の方は、太陽が沈んで、安全になった夕方にご覧ください。

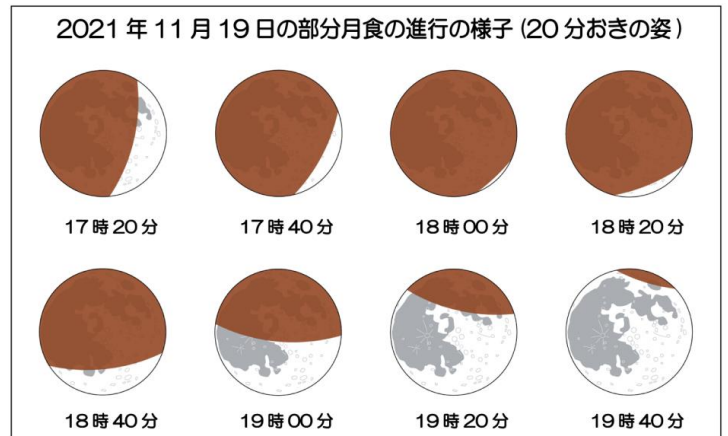
## 10日(水)~12日(金)、南の空で、月と土星、木星が並んで輝く

10日(水)の19時ころ、ほぼ半分に欠けた明るい月が、南の空に輝いています。この月の上側に見える星が、土星です。土星は1等星より明るいのですが、月がまぶしいほど明るいので、注意深く探してください。そして、11日(木)になると、月は土星の左側に移動します。なお11日は、月の左側に木星が見えています。木星は大変明るく、目立つ存在になるでしょう。さらに12日(金)になると、木星の左側に月が移動し、この接近は終了となります。なお、この中でいちばんバランスがいいのは、11日の夜です、月の右に土星、左に木星が輝きますので、ぜひご覧ください。

## 19日(金)、部分月食が見られる

19日(金)の夜、部分月食が見られます。今回は、月食が始まり欠けた状態で月が昇ってきます。ただし昇ったところは高さが低いので見えないでしょう。月が見えてくるのは17時30分ころになると思います。このころは、左上が半分以上欠けた月になっています。東より少し北方向、東北東の空に注目してください。そして、18時すぎに最も大きく欠けます。約98%かけるので、ほぼ皆既月食と同じように赤黒く見えるでしょう。

この後、月の明るい部分がだんだんと増えていきます。18時30分を過ぎると月の下側が明るくなり、19時以降はかなり眩しくなるでしょう。そして、月食の終了は19時47分ころになります。今回の条件から見ると、月食の後半がよく見えるので、18時以降が見やすいでしょう。ただし、月の高さが低いので、東北東方向に障害物がないところで、ご覧ください。また、肉眼で見えますが、5倍程度の双眼鏡があればより楽しむことができるでしょう。



## 11月の流星群

11月上旬から中旬のおうし座流星群が極大となります。ただし、見える数は1時間に数個以下です。また、18日ころにしし座流星群が極大となります。こちらは、明け方前に見られますが、ほぼ満月の月が明るく輝き、多くても1時間に数個程度です。このように、二つの流星群がありますが、実際は、ほとんど見る事ができない流星群ばかりとなります。

## 秋の星を見つけよう

右の図のように、秋の四角形を使うと見つけることができます。見える時刻は、11月上旬の20時ころ、下旬ですと19時ころです。そして、見える方角は、南の空を見た時の様子です。右が西、左が東、下が南で上が北になります。

さて、秋の星の見つけ方ですが、たとえば、秋の四角形の右側の辺を結んで、南側に伸ばすとフォーマルハウトが見つかります。この星は、秋の星座の中でただひとつの1等星で、秋のひとつ星や南のひとつ星と呼ばれます。今年は、フォーマルハウトの西側のやぎ座に木星、土星が輝きいつもとは違った姿になっています。

また、左側の辺を結んで、同じように南側に伸ばすと、くじら座のデネブカイトスにたどり着きます。

いっぽう、左側の辺を結んで北に伸ばすと、カシオペア座(となりケフェウス座があります)をとおり、北極星へたどり着きます。

このころ、秋の四角形は、ほぼ頭の真上に輝いています。まず頭の上を見上げて、四角形を見つけ、秋の星座たちを見つけてみてください。

なお、11月は19日が満月になります。満月のころは、月が明るく星が見にくいことがあります。星座を見つけるには、上旬か月末がいいでしょう。

